

第2回 広島大学旧理学部1号館の保存・活用に関する懇談会 議事要旨

1 懇談会名称

広島大学旧理学部1号館の保存・活用に関する懇談会

2 開催日時

平成28年8月3日（水）午後2時～午後3時50分

3 開催場所

広島大学東千田未来創生センター 3階 講義室M304

4 出席者

(1) 委員（委員14名中12名出席のうち代理出席1名）

広島大学 高田座長、広島経済大学 小谷委員、広島女学院大学 桐木委員、
広島国際大学 久保田委員、広島工業大学 河内委員、
広島大学本部跡地活用促進会 弘法委員、広島経済同友会 曾根委員、
日本原水爆被害者団体協議会 坪井委員、県立広島大学 原田委員、
千田地区社会福祉協議会 村上委員、広島市立大学 若林委員
（頼委員の代理として、原爆遺跡保存運動懇談会 石丸世話人が出席）

(2) 事務局

都市整備局長、都市機能調整部長、都市機能調整担当課長、担当職員

(3) 関係者（広島大学旧理学部1号館の保存・活用に関する懇談会開催要綱 第5条第3項に定める関係者）

広島大学 社会産学連携室 岡本 修治 副理事（東千田未来創生センター担当）
社会福祉法人 広島常光福祉会 柿木田 勇 理事長
社会福祉法人 広島常光福祉会 本部企画室 新関 修 施設長

5 議事

- (1) 広島大学本部跡地における取組状況について
- (2) 旧理学部1号館の保存・活用について

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴人の人数

一般傍聴者1名、報道関係者3社

8 懇談会資料名

次第

資料 1－1	広島大学によるプログラム紹介資料
資料 1－2	民間事業者によるプログラム紹介資料
資料 2	各委員からの提案資料
参考資料 1－1	広島大学旧理学部 1 号館の建物概要について
参考資料 1－2	広島大学旧理学部 1 号館の劣化状況調査結果について
参考資料 2	広島大学旧理学部 1 号館の保存・活用に係る市民アイデア募集の結果概要について
参考資料 3	他都市の歴史的建造物の保存・活用の事例について
参考資料 4	基本的な考え方

9 各出席者の発言の要旨

(1) 広島大学本部跡地における取組状況について

【座長】

- ・ 最初に、本日の進め方について御説明させていただく。
- ・ 第 1 回懇談会では、「旧理学部 1 号館の保存・活用の方針」のうち、「基本的な考え方」について、委員の皆様にご意見を伺った。
- ・ その結果、基本的な考え方を、①旧理学部 1 号館について、「知の拠点」の核となり、新たな時代に向けて知の継承を図るとともに、被爆の実相を後世に伝えることができるよう、保存・活用すること、②保存・活用に当たっては、跡地全体が「知の拠点」としての機能が高まるような機能の導入を図ること、の 2 項目としたところである。
- ・ この基本的な考え方のうち、「跡地全体が「知の拠点」としての機能が高まるような機能の導入を図る」という点を踏まえて御意見をいただくためには、皆様に、旧理学部 1 号館以外のエリアでの、「知の拠点」の実現に向けた取組を知っておいていただく必要がある。
- ・ このため、本日は、まず、広島大学東千田キャンパスに開設した「東千田未来創生センター」での取組について説明を伺う。次に、民間事業者による開発地の「ナレッジシェアコミュニティ」という施設におけるプログラムについての説明を伺う。
- ・ その後、旧理学部 1 号館の保存・活用について、委員の皆様の意見交換を行いたい。
- ・ それでは、議事(1)「広島大学本部跡地における取組状況について」に入る。
- ・ 最初に、広島大学 社会産学連携室 岡本修治 副理事（東千田未来創生センター担当）に、「東千田未来創生センター」での取組について、説明していただく。

【岡本副理事（東千田未来創生センター担当）】

— 資料 1－1 により説明 —

【座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ せっかくの機会なので、質問等があればお願いします。

【石丸委員（頼委員の代理）】

- ・ この建物（東千田未来創生センター）に、さらに機能が加わる必要がある、あるいは、さらに空間が必要であるといったことはないのかを伺いたい。

【岡本副理事（東千田未来創生センター担当）】

- ・ 現在のところは、十分に機能を果たしていると考えている。

【座長】

- ・ 医歯薬の学生400名の教養教育の実施及び大学間・産業界・自治体等との連携による教育・研究プロジェクトの実施という枠の中では十分であるというお答えであり、これが発展すれば、さらなる施設等が必要になるだろうと想像するが、その考えでよいのか。

【岡本副理事（東千田未来創生センター担当）】

- ・ そのとおりである。

【座長】

- ・ ありがとうございます。その他に質問等があるか。
- ・ 質問が無いようなので、続いて、社会福祉法人 広島常光福祉会 柿木田理事長に、「ナレッジシェアコミュニティ」での取組について、説明していただく。

【柿木田理事長】

— 資料1－2により説明 —

【座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 質問等があればお願いします。

【村上委員】

- ・ 5階のコミュニティルームや6階のナレッジホールは、地域の町内会の会議等で使用できるのか。

【柿木田理事長】

- ・ 使用できる。この施設には、災害時に備えて、水や毛布等を備蓄しており、それも使用できる。（5階のコミュニティルームは地域の方のみでは使用できない。趣味を通して地域と一緒にが目的）

【久保田委員】

- ・ パンフレットの2ページ目の利用料について、居住に要する費用（予定）に、入居時と月々に、300万と30万の2つの区分けがあるのは何故か。

【新関施設長】

- ・ 入居一時金については、建物に建設に関する費用の一部を利用者が負担するという考えの下に設定している。
- ・ ケアハウス東千田ラポーレは、入居一時金を300万円とし、25年間の償却ということになっている。
- ・ 入居一時金300万円の支払いが一度では困難な方については、預り金30万円の支払いという形をとり、月々の支払いがかわります。

【柿木田理事長】

- ・ 年1回、市の監査が行われており、25年の償却前にお亡くなりになった場合は、未経過分の返還を行うなど、適正な運用をしている。
- ・ 介護業界は、人手不足で非常に困っている。当法人では、全国で初めて、選択制ではあるが、週休3日ということを試みている。若い人は、3割程度がこの週休3日を選択している。

【石丸委員（頼委員の代理）】

- ・ 旧東千田キャンパスがバラバラに使われているのをさみしく思っている。民間事業者へ聞くことではないかもしれないが、何か共通したコンセプトというか、将来、何か問題が起きた時には、集まって対応するといったことは考えていないのか。

【事務局】

- ・ 広島大学本跡地については、「知の拠点」の再生という観点で、民間事業者の公募を行った。
- ・ 事業者のコンセプトは、跡地全体で「知」が生まれ、育つように、地域に開かれたまちづくりを行うことと、「知」の育成・支援・定着を目的としたそのコミュニティ、それらが連携する仕組みを創設する、ということが民間事業者からの事業計画の中に謳われていることである。
- ・ 「ナレッジシェアコミュニティ」においても、先ほど紹介のあったとおり、地域の交流や人材の育成といった取組を取り入れていただいている。
- ・ また、代表事業者へは、総括したタウンマネジメントのような取組により、事業コンセプトの実現が促進されることを期待している。

【石丸委員（頼委員の代理）】

- ・ 資料1－2の沿革の次のページに、「知の拠点」に関連して設置されているという記述があるとよい。

【座長】

- ・ 資料1－2の事業実施計画のテーマに「「知の拠点」を持続させるため世代間で「知」を伝え合う施設」とあるとの位置付けが記載されている。

【事務局】

- ・ 資料にあるように、民間事業者は、地域の子供たちとの交流や、公開講座といった人材育成に関連した取り組みを行っている。

(2) 旧理学部 1 号館の保存・活用について

【座長】

- ・ それでは、旧理学部 1 号館の保存・活用についての議事に移らせていただきたい。
- ・ このたびの懇談会に先立ち、事務局から委員の皆様に提案の有無を伺っている。その結果、3名の委員の方から提案をいただいている。
- ・ まず、3名の方の提案を説明していただき、それぞれの内容について質問等があればお聴きしたい。すべての提案の説明をいただいた後、保存・活用全体についての意見交換を行うように考えている。
- ・ それでは、弘法委員からご説明いただきたい。

【弘法委員】

— 資料 2 により説明 —

- ・ この提案のコンセプトは3つある。1つは「賑やかな元気な街」、2つ目が「若者、学生の街」、3つ目が「芸術、文化の街」である。
- ・ 地域としては、広島大学の移転の影響は大きく、大変寂しい思いをしていた。そのような中、東千田未来創生センターが開設され、医学系の学生の教養課程が戻るということで、とても歓迎している。
- ・ また、民間事業者の開発において、多目的室等、地域で利用できる空間を取るよう配慮していただき、喜んでいる。
- ・ こうした流れをさらに加速したいという思いで今回提案している。
- ・ 旧理学部 1 号館については、やはり学生がここを利用していただくよう、広島大学のすべての学生の教養課程の場とすることを望んでいる。
- ・ また、広島大学に限らず、地域の大学も合わせ、教養課程の学生が集う場所になることを望んでいる。
- ・ 旧理学部 1 号館については、被爆建物ということはもちろんであるが、同時に千田町の風景の一部にもなっており、何らかの形で残っていくことを願っている。
- ・ 建物を保存修復しながら、市民の方、地域の学生に、この建物を1つの平和活動・平和教育の活用の一環として、プロジェクションマッピング等による文化的なイベントを開催することも提案する。酒祭り等、何か地域をあげてイベントができれば本当に楽しい場所になると思う。
- ・ 建物の保存範囲については、前側の部分は残すべきで、後ろ側の3列の建物は無くなっても仕方がないと考えている。後ろ側が無くなれば、いろんなイベントもできるし、一時的な駐車場としても利用できないかと思っている。
- ・ ここには非常に素晴らしい公園もある。ただ、緑地であるだけでは面白くないので、旧理学

部1号館を中心にしながら、学生による彫刻等の作品展示や、交流する場にならないかとも思う。

- ・ それから、できれば地域の者が活動する場がほしいと思っており、日常的に地域が利用できる場を設けることを願っている。地域の人が利用する場合、お年寄りがいるので、エレベーターなどの設置もお願いしたいと思っている。
- ・ 建物の後ろ側については、大学の教養課程としての活用により、学生がたくさん来るのであれば、将来の増設スペースとし、旧理学部1号館が象徴的に映えていくような、ガラス張り等の建物を建ててはどうかと思う。
- ・ 民間事業者による広島ナレッジシェアパークの提案は、「知を育み、定着させ、持続させるまちづくり」をコンセプトにして選定された。旧理学部1号館については「知の拠点」というコンセプトを忠実に推し進めることを願っている。

【座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 今の提案について、何か質問等があればお願いします。

【原田委員】

- ・ 「若者文教の街・芸術の街」という提案はよいと思うが、人口の26%以上が高齢者という超高齢化社会となっている中、若者等、年齢層で分けるのではなく、できれば生涯を通じた子供から高齢者まで皆が集える場所とした方がよいと思う。
- ・ それから、建物の保存に関しては、この前、建物の内部を他の委員の先生と一緒に視察させていただいたが、劣化がひどく、危険な箇所がたくさんあり、先ほど提案のあったエレベーター設置も今の状況では困難だと思う。
- ・ 視察の際はヘルメットをかぶって周辺を周ってみたが、レンガが外壁からはがれ落ちている箇所が多く、相当な劣化があり、建物を今の状態で残すということは非常に厳しいのではないかと思った。
- ・ 最近ではコンピューターグラフィックスが非常に発達しており、デジタル画像でバーチャルリアリティにより保存することも十分可能と思う。
- ・ 外壁の一部を象徴として残しながら、コンピューターグラフィックスなどを使って、映像で建物や、当時の学生、教官の状況を再現できるのではないか。
- ・ コミュニティというものは、全国的に衰退してきている。広島市も自治会とか町内会の再生に取り組んでいると思うが、ここの千田の拠点が全国のモデルになるような立派な集会所のような形で活用できればよいと思う。他の人に聴くと、最近はコミュニティスペースと呼ぶのだそうだ。
- ・ 多目的に子供から高齢者が活用できるミーティングルームであるとか、例えばオープンカフェ、書道教室、それから男性も夫婦のうち1人が残される可能性があるので、男の料理教室など、幅広く活用できるコミュニティスペースのようなものがあるとよいと思う。
- ・ 先ほど、広島大学が不登校の子供、あるいは閉じこもりの子供に対する取組を行っているとお聴きしたが、何かフリースクールのようなものができるスペースがあれば、色々な世代、

色々な目的を持った方が集えるのではないかと思います。

【座長】

- ・ ありがとうございます。後ほど全体の保存活用に関する意見交換したいと思っていたが、一部、原田先生からご意見をいただいた。これは後ほどの議論の中でも取り上げさせていただきたい。
- ・ 弘法委員からの提案に関して、他に何か質問等はあれば、願います。無いようであれば、村上委員から説明をお願いしたい。

【村上委員】

- ・ 先ほどの弘法委員の提案に、私の意見も加味されてはいるが、細かいところをお願いというか、検討していただきたいことがある。
- ・ 原田委員が私どもの意見を代弁していただいたのではないかと思います。同じような考えを持っている。
- ・ 東千田公園は、千田地区のちょうど真ん中にある。そういう意味で、公園に散歩に来た人がそこで先ほどの集会所とかコミュニティスペースといった施設を利用するのに非常にいい環境にある。
- ・ 千田地区社会福祉協議会では、広島市が推進しているいきいきネットワーク、ミニサロン、見守り活動とか色んな事業を行っているが、そういう拠点として一番使いやすい場所だと思う。
- ・ 残す、残さないという問題もあるだろうが、地域の人に色々訊いてみると、残しても良いよという人もいるが、先ほどデジタル映像という意見があったが、もう建て替えて新しく同じような形で、そういうような活用しても良いのではないかと人の方が多い。
- ・ そのままを残すということは、なかなか難しい状況だと思うが、そのことについては皆さんでお話ししていただき、できればコミュニティ活動のためのスペースを造っていただきたい。
- ・ 先ほど、「知の拠点」構想で広大跡地全体の連携がないという意見もあり、今後は色々検討していかなければいけないと思った。
- ・ それは地元の私どもにやらせてもらえるならば、今、整備されている諸設備の方々と話をする場があるので、検討していけると思う。
- ・ 地域では、日赤病院とも年1回2回交流会を持っている。そういう中で「知の拠点」構想の色んな連携を保つような話もしていけないと思った。
- ・ それと、また集会所の件だが、今、千田地区にある広島市社会福祉センターが無くなる（移転する）予定で、スポーツ会館という木造の建物が老朽化で、これも無くなる予定である。
- ・ その後、新しい建物ができる予定はなく、だんだん人が集まる場所がなくなってしまう。ぜひ、千田地区の真ん中にある、広島市全体から見て交通の便利が悪くない旧理学部1号館の場所を、地域の人が集える場として活用させていただきたい。
- ・ この地区は昔、文教の街と言われており、そういう地盤はあると思うので、先ほど意見のあった、各種の生涯学習教室とか、どんどんそういったものを進めていただきたい。
- ・ 町内会の地域福祉活動への参加を呼び掛けるのにも、この場所が一番よいので、そういう形

の活用をしていただく、また、防災防犯ということで、何かの時に2階、3階をそのようなものにも活用できるものをお願いできればと思う。

【座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 村上委員から、地元の意見の1つとして色々提案いただいたが、何か質問等があれば、願います。無いようであれば、石丸委員から説明をお願いしたい。

【石丸委員（頼委員の代理）】

— 資料2により説明 —

- ・ 保存に関して、劣化の問題等、色々困難な点が指摘されているが、こうしたことをどう考えるかをきちんと議論しておく必要がある。
- ・ 機能についての提案をしても、保存に関して並行的に技術的な検討をかなりきっちりやらなければ、せっかくの活用に関する議論が台無しになる可能性があるという心配から幾つか述べたい。
- ・ 1つは、旧理学部1号館を、例えば国の重要文化財にまでする気持ちがあるのかどうか、要するに、現在の建築基準法なり耐震性のチェックの問題をまともに受けるのか、直接そのチェックを受けなくてもっと総合的な観点で建物を扱うという方向を目指すのかどうか、その辺の考えをきちんと整理するということである。
- ・ 現在の基準をクリアしようということであれば、かなり革新的な耐震法なり、劣化を食い止める方法を試みる気持ちを持つのかどうかである。
- ・ もし、そういった技術的な試みをするのであれば、その技術的な試みについて、確証とまではいなくても、保証してくれるような技術の専門家とタイアップしていかなければ、せっかくの今回の議論が後で帳消しになる可能性がある。特に耐震性、劣化問題についての対応の仕方について議論し、早めにきちんと退路決定したほうが良いのではないかと考えている。
- ・ もう一点、資料には記載していないが、枠組みの問題として、旧理学部1号館の保存・活用は被爆70周年の（まちづくり先導）事業だということだが、例えば、被爆80年とか100年とかいうスケールで、旧理学部1号館を考えるスタンスを持っておいた方がよいと思う。
- ・ 被爆100周年として、例えば中央公園、比治山公園とか、旧理学部1号館の敷地を含めて、広島市がこれから長期的に何を発信したり、どういう役割を果たす必要があるのかという発想も持って、あまりにも大げさになり過ぎるとまずいとは思いますが、改めてこの敷地がどういう意味を持っているのかということを考えていただきたい。
- ・ 具体的な機能については、現段階では直接提案していないが、弘法委員や色々な委員の方々の提案をもう少し詰めていくときには、やはり、困難なことはこうだよとか、それは絶対おかしいよというような議論もしないと決まっていかなければと思う。

【座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 今の石丸委員からご指摘について、事務局から何かコメントはあるか。

【事務局】

- ・ 第1回の懇談会で、建物の概要や劣化状況等を報告したとおり、耐震性や劣化の概要等を整理している。
- ・ 参考資料1－2の劣化状況調査結果の2ページのとおり、構造部材の強度について当時の設計基準に比べてどうかといったことや、中性化の深さがどうかといったことを調べている。
- ・ 耐震診断についても、代表的な部分として建物前側のIS値を測っている。
- ・ 理学部が東広島キャンパスに移ってからもう20年以上経っているということで、建物内部は防水が切れて、水が漏れている。
- ・ 鉄筋が膨張して、コンクリートが剥げているようなところもあるし、しっかりとしているところもある。
- ・ 概算改修費については、耐震であれば、壁を増し打ちしたり、新たに壁を造ったりという形で概算を出している。
- ・ 参考資料3の3ページにある、学習院大学の南一号館は、学習院大学の理学部であった校舎を一般校舎に改修しているものであるが、耐震改修ということで耐震壁を新設したり、外壁改修で新規タイルへ貼りかえをしたりといった技術的対応がなされている。
- ・ 旧理学部1号館についても、一定程度の改修等を行えば建物として使うことも可能であるし、耐震と劣化についても何らかの対応はできるのではないかと考えている。
- ・ この懇談会において、今回と次回、こういった保存・活用とするか色々ご意見いただくことにしているので、その意見も参考にしながら事務局の方で検討していきたいと考えている。
- ・ 被爆80周年、100周年ということについては、旧理学部1号館の保存・活用は、被爆70周年のまちづくり先導事業として、被爆100周年を見据えて検討しているものである。
- ・ 文化財の話については、参考資料1－1の3ページに、平成10年3月に広島県教育委員会が行った広島県の近代化遺産調査の報告書の一部を掲載している。
- ・ 報告書の中では、旧理学部1号館が文化財に当たるかという話になると、そこまでの記述はなく、庁内の関係課に意見を聴いていきたいと考えている。

【石丸委員（頼委員の代理）】

- ・ では、費用を掛ければ改修可能であるということでよいか。

【事務局】

- ・ 構造の専門家の意見を聞くべきではないかといったご提案もあるので、そういったことを検討するということもあるが、すぐ壊れるという状況ではないと思っている。

【石丸委員（頼委員の代理）】

- ・ 後から、これは構造的にできないということにはならないということによいか。
- ・ 要するに建築基準法も通る、建築確認の申請なども問題なく通るということか。

【事務局】

- ・ 具体的にどういった部分を保存し、どういった活用をするかということによって、荷重をどう見るかといったことも関わるため、今、一概にそういった回答はできないが、建物を概観する限り、一定程度の改修、どの程度費用を掛けるかということはあるが、改修できないことはないのではないかと考えている。

【石丸委員（頼委員の代理）】

- ・ 私は、自立さえもちょっと危ないのではないかと心配し過ぎているところもあるのかも知れない。解体するという方針もあり得ると思うが、構造的には保存可能であるということならば、それでやって良いということですね。

【事務局】

- ・ 構造の資格を持った方に意見を伺うことも必要かとは考えている。

【石丸委員（頼委員の代理）】

- ・ それをぜひやってほしい。後からこれ駄目ですよと言われたら、せっかくの議論が台無しになってしまう。

【座長】

- ・ 私はまったくの素人だが、参考資料1－2の2ページに、概算改修費という一覧表があり、今の話も併せて伺うと、こういう可能性はあるということだと思う。
- ・ 一方で、これだけの経費をどこから調達するのかという大きな問題もあるかと思う。
- ・ この懇談会としては、保存と活用ということなので、まず保存するかしないかという意見をいただいて、さらにそれを進めていくかということになるが、今の石丸委員の発言は、保存すると決めた時にできなかったらどうするのかということであり、それは並行しながらの議論になるかと思う。石丸委員、今日の所はその辺でよいか。

【石丸委員（頼委員の代理）】

- ・ それでよいが、ある段階でかなり具体的な設計をやっているグループがあった。そこでは、かなり悲観的な答えを出していた。
- ・ 費用さえ掛ければ、掛けるかどうかは別にして、掛ければ改修できますよということであれば、進めていいと思うが、後で駄目だよと言われたらどうしようもない。

【座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 3名の方から、提案をいただいた。既に全体的な議論に一部入っているが、この提案を受けて、意見をお願いしたい。

【曾根委員】

- ・ 経済同友会では、今年3月に、広島の都市機能どのように考えたら良いかという観点での提言を出している。
- ・ その中で、広島市の問題点の一つとして、広島大学が西条に移転し、他の大学も郊外に移ってしまい、街なかに若い人、学生の姿が少なくなったということを挙げている。
- ・ 学生の発信する情報量は大変多く、学生が街なかで活動できるような拠点があった方が良いという意見が提言に盛り込まれている。
- ・ もちろん、旧理学部1号館が学生のためだけの場所ではないことは、皆さんのおっしゃる通りなので、色々な人が使える拠点としてあるべきだと思うが、その中の柱の1つとして、学生がここで生き活きと活動できるようなメッセージを入れていただければありがたいと思う。
- ・ ただ、その時に、広島大学の専用施設みたいになってしまうのはよろしくないと思う。他の大学の方々も積極的に活用できるような施設ができればよいと考えている。
- ・ では、この場所が他の大学の方々から見て、利用しやすい場所なのかということについて意見を伺いたいと思っている。
- ・ 地域のための施設というのも大事だが、市全体の活力に貢献するという役割も両方を持つような施設が必要というのが私の意見である。

【座長】

- ・ ありがとうございます。大きな視点からの意見をいただいた。
- ・ そのほかに意見があればお願いします。

【原田委員】

- ・ 学生が集う、若者が集うということも大事だとは思いますが、4月から広島大学の霞キャンパスの学生400人が東千田キャンパスに来ており、その検証というか、成果がどのくらいあるかもきちんと見ておく必要がある。
- ・ 学生が来ただけで地域、広島市全体が活性化するなら話は簡単であるが、若者が集うだけでは、やはり相乗効果、シナジー効果というのはあまり出てこないのではないかな。
- ・ 世代間を越えて、子供もいれば、そこに関わる大学生のボランティア等、そういった世代間の交流を考えていかないといけない。学生が集まるだけで地域が活性化することは考えにくいと思う。

【座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 先ほど意見をいただいた中で、広島大学以外の学生が来やすい環境になっているかという質問もあったが、大学関係者の方々で何かコメントがあればお願いしたい。

【小谷委員】

- ・ 広島経済大学から見て、この場所が使いやすいかという点については、結構場所が離れているので、そう頻繁に来れる場所ではない。
- ・ 私どもは本通りの方に拠点があり、そちらの方がより使い勝手が良いと考えている。

【桐木委員】

- ・ 各大学が市内にサテライトキャンパスを持ち、それぞれ地域あるいは市内の中心で色んな活動をされている。広島女学院大学はサテライトキャンパスを持っていないが、他の委員から意見があったように、大学間の交流という点で見ると、あまり活性化されていないのではないかと考えている。
- ・ もし、旧理学部1号館の場所が大学を越えて学生たちが集まり、何かテーマを設けてプロジェクトを企画し、それから地域の方々と一緒に何か活動できるような拠点になれば、それは良いことだと思う。
- ・ そういった意味では、中心部から少し離れてはいるが、アクセスとしてはそんなに悪くないと考えている。
- ・ 今の学生たちは、ボランティアな心性を持ち、色んなところへ出かけて行くので、学生たちにとって魅力的なプロジェクトがあれば、集まって来れるくらいの距離ではないかと感じている。

【坪井委員】

- ・ 私は被爆者の代表として色んなことをやっているのですが、一言ということであれば、広島だからということになる。
- ・ 色々、今検討されていることには感心することが多いが、中身がどうなるかが心配である。お金が掛かり過ぎるから中身までおかしくなるとか、広島の平和とか、核兵器廃絶とかいうものは肌の色で変わることはない。あるいは、小国とか大国だからどうなるということはない。
- ・ したがって、どういう人たちの広島であれば、いつの間にかそういう空気になれるといった話がもう少し出ていただければよいと思う。それは中身の問題だから、何もできないうちにどうということはないが、私も少し年を取っているのです、急ぎ過ぎるのかも知れない。
- ・ しかし、やはりヒロシマを忘れてはいけない。原爆を忘れても良いが、ヒロシマを忘れてはいけないと思う。

【座長】

- ・ ありがとうございます。技術論に走るところ、本当に根本的なことを再度確認できた。

【若林委員】

- ・ 大学の意見ということで、広島市立大学から見ると、少し離れた場所というのは確かである。
- ・ 弘法委員の提案の中に、教養教育というキーワードが入っていたが、教養教育だけで市内の学生を集めるのはやはり少し難しい。
- ・ 今、広島というキーワードがあったが、元々、「被爆の実相を後世に伝えることができるよう、保存・活用する」というコンセプトがあるので、もし、学生をという話であれば、単なる教養教育だけではないものを加えていくべきではないか。

- ・ 広島市立大学として何か決めているわけではないが、そうすれば、各大学も、広島にある大学として色々協力することもできるのではないかと個人的に思う。
- ・ 教養教育については、それぞれの大学で既にコマを決めている。私の大学であれば、高速4号線の向こうにあるので、学生はなかなか移動が難しく、もし、この場所で若い学生をということであれば、そこにはやはりアイデアがいる。
- ・ 例えば、平和とか、広島を学ぶとか、あるいは私の大学もいくつかの大学と連携してCOC+（地（知）の拠点大学による地方創生推進事業）をやっているが、そういったものでつないでいく等、何かアイデアがいるのではないかな。
- ・ では、そのアイデアが何かということは、考えさせていただくことになるが、先ほどから大学あるいは学生という話があったので、申し上げさせていただいた。

【原田委員】

- ・ 私の県立広島大学は立地がよく、この場所に集うという点では非常に近い。
- ・ 教養教育をどこの大学でもやろうと思ったら、多分不可能に近いと思う。例えば今、坪井委員がおっしゃったような、平和教育について考える場として、大学生が勉強しに来て、大学間の連携、交流を盛んにする場とするのであれば、ふさわしい場ではないか。
- ・ 例えば、コンピューターグラフィックスを利用して、学生に被爆の時の現状をバーチャルリアリティで見せて勉強する、平和を研究する試みとか、原爆に対する反感という気持ちを養うなど、映像を教育に取り入れるのは非常に安価でありながら実は効果が非常に高いと思う。
- ・ 建物をすべて残して、それに対する費用をのべつ幕なしに使い、結局、平和を考える教育への費用が先細りしてしまうのは本末転倒ではないかと思う。
- ・ それから、コミュニティスペースの活用等、やはり地域が元気になっていく、平和を希求しながら、元気な広島市をつくっていくことが多分皆さん共通の想いであろうから、そういうことを目指していくべきだと思う。

【坪井委員】

- ・ 私は、ここの正門から南門まで逃げてきた。私は、その時は戦争が終わったのを知りませんよ。何というかね、講堂の中に入ったら死臭がして、それでも、私も頭から足の先までやられていたので、あんまり動けなかった。そういうことを思えば思うほど、私には忘れられない学校でもあるし広島でもある。
- ・ だからどうしてもヒロシマを忘れることはできませんよね。そうしたことを思ってもらえたらいいですね。

【座長】

- ・ ありがとうございます。本当に根幹の部分ということで、改めて各委員心に刻んだと思う。

【河内委員】

- ・ 皆さんの貴重なご意見は大変勉強になります。
- ・ この場所が「知の拠点」ということ、その知の継承が大きな課題になっているということと、

もう1つは建物の保存、石丸委員からお話があったように、近代的な建物としての価値、経済的なことも含めて、どのようにこれを継承していくかということが問題である。

- ・ もう1つ、今、皆さんがお話しされたように、若者を呼び戻したいということはあるが、ここは学生ばかりではなく、やはり市民にとっての大学、キャンパスということで、シビックキャンパスかなと。それにピースを入れるかということがある。
- ・ 平和ということが、地域だけではなく、国際的な意味での知の継承ということでもあるので、地域の地（知）であり、大学の知であり、それから世界に向けての知の発信ということで、その3つの知の継承ということが必要になってくるのではないかな。
- ・ 特に、元々大学のあった場所なので、やはり、どこかでアカデミックというか、知の根拠みたいなものが必要になる。
- ・ 現在、この場所には、広島大学というエデュケイショナルなエリアがあり、住居であるとか、福祉・介護という高齢福祉社会を先取りしたような民間の施設がある。それをつなぎながら、例えば博物館だと1回行ったら行かなくなってしまうので、午前、お昼、午後、夕方、夜という日常を考えた複合的で、公的な、しかも機能性があり、よく使われるようなものとしての施設計画が必要になる。
- ・ 現代であるから、例えば、アトリエとか、オープンサテライトとか色んなものがある。あるいは、メディアテイク的な図書機能であったり、音楽機能であったり、さらに癒しの場所みたいなものがあったら良いと思う。
- ・ 建物をファザードだけ残しても、十何億円掛かるので、やはり地域に活かされるとともに、世界に発信できるようなプログラムが大事になってくる。
- ・ それから、プログラムを充実、動かすための組織みたいなもの、ミュージアムというキュレーターみたいな企画する人が必要だと思う。こういう企画の中に、市民がいたり、被爆者の方がいたり、あるいは大学の先生がいたり、子供がいたりということで、プログラムと運営という中で、様々な機能が出てくるのではないかな。
- ・ 地域に活かされるとともに、世界に発信できるようなプログラムと、盛りだくさんであるが、今皆さんのお話聞いていたら、結構うまくいくと非常に自慢できるような建物になるのではないかなと感じている。
- ・ 保存に関しては、費用との関係もあるが、坪井委員がおっしゃったように、技術が殺戮兵器を生んで、多くの犠牲者がいらっしやるという意味の場所として、何か記念的なものは必要だと思う。
- ・ 非常に複合的な機能なので、それを運営する人と、プログラムがいる。その2つも同時に考えなくてはならないと思う。

【座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 河内委員が全部まとめてくださったような感じであるが、非常に盛りだくさんの内容を、限られたスペースと限られた資金の中でどう運営していくか。根本には平和あるいは広島ということ念頭に置き、その中でできること、できないことをさらに詰めていくこととして、今回のまとめとしたい。

- ・ まだまだ議論は尽きないが、予定の時間も来ているので今日はこの辺りで終了とし、引き続き、次回の懇談会で保存活用の方向性、活用法、保存範囲といったところの議論をさせていただく。
- ・ 今日は、大変よい議論ができたのではないかしらうし、色んな可能性を出すことができたのではないかしらう。それでは、進行を事務局にお返しする。

【事務局】

- ・ 本日は貴重な御意見をいただきありがとうございました。
- ・ 本日いただいた御意見については、事務局の方で検討する。
- ・ ここで、事務局から、本懇談会の座長の職務代理について報告させていただく。
- ・ 懇談会の開催要綱において、座長の職務代行に関する規定がある。この度、高田座長から若林委員を職務代理とするよう指名があったので、報告させていただく。
- ・ 次回の開催日程等は、別途調整するのでよろしくお願ひしたい。
- ・ 以上をもって、第2回懇談会を閉会する。

以上